
平成24年度

国東市学力向上推進計画



国東市教育委員会

平成24年4月

はじめに

昨年9月に実施した平成23年度『全国学力・学習状況調査』は、全国的な義務教育の機会均等と教育水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図ることや各学校が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握・分析し、さらに具体的方策を立て、日常の指導法の工夫改善に生かすことを目的として行なわれました。この『全国学力・学習状況調査』や9年目を迎えた『大分県の基礎・基本定着状況調査』より、本市において「知識や技能等を活用する力」「学習意欲」「生活習慣」等に課題があることが明らかになりました。

また、小学校の全学年（本年度は、国語・算数に理科を追加）、中学校1，2年生の5教科（国語・社会・数学・理科・英語）を実施してきた『国東市標準学力調査』の結果から、特に小学校中学年で躓いている児童が多いことも明らかになりました。

このような中、国東市教育委員会においては、これらの調査結果を多面的に分析し、明らかになった成果や課題に基づいて、学校・家庭・地域社会に役立つ改善方策及び各学校における学力向上対策に向けての方向性を示す「国東市学力向上推進計画」を作成し、全学校に配布するとともに、地域住民の方々へ公表することにしました。

さらに、今後は国や県から学校に提供されている情報及び本市が実施している学習状況調査の結果などを踏まえ、「国東市学力向上推進計画」の活用を図った改善計画である各学校の「学力向上プラン」が作成されるよう協力支援体制を整えるとともに、保護者をはじめ地域住民の方々へ結果及び今後の指導のあり方について公開し、理解と協力を得ていくことが必要です。各学校においては、「国東市学力向上推進計画」の趣旨をご理解いただき、学校・家庭・地域社会が十分な連携をとりながら、自らの教育活動の検証・改善を推進していただくとともに、「学力向上プラン」を作成し、学力向上に積極的に取り組んでいくことが必要であります。

学校教育に携わる全ての方々が、より質の高い教育活動を創造することを通して、本市の児童生徒に知識・技能のみならず、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの「確かな学力」を育成することを期待しています。

平成24年4月

国東市教育委員会
教育長 山本 泰光

目次

I 「国東市学力向上推進計画」の概要

II 「国東市学力向上推進計画」の基本的考え方

1. 「学力向上推進計画」の柱を明確にする
2. 検証改善サイクルを確立する

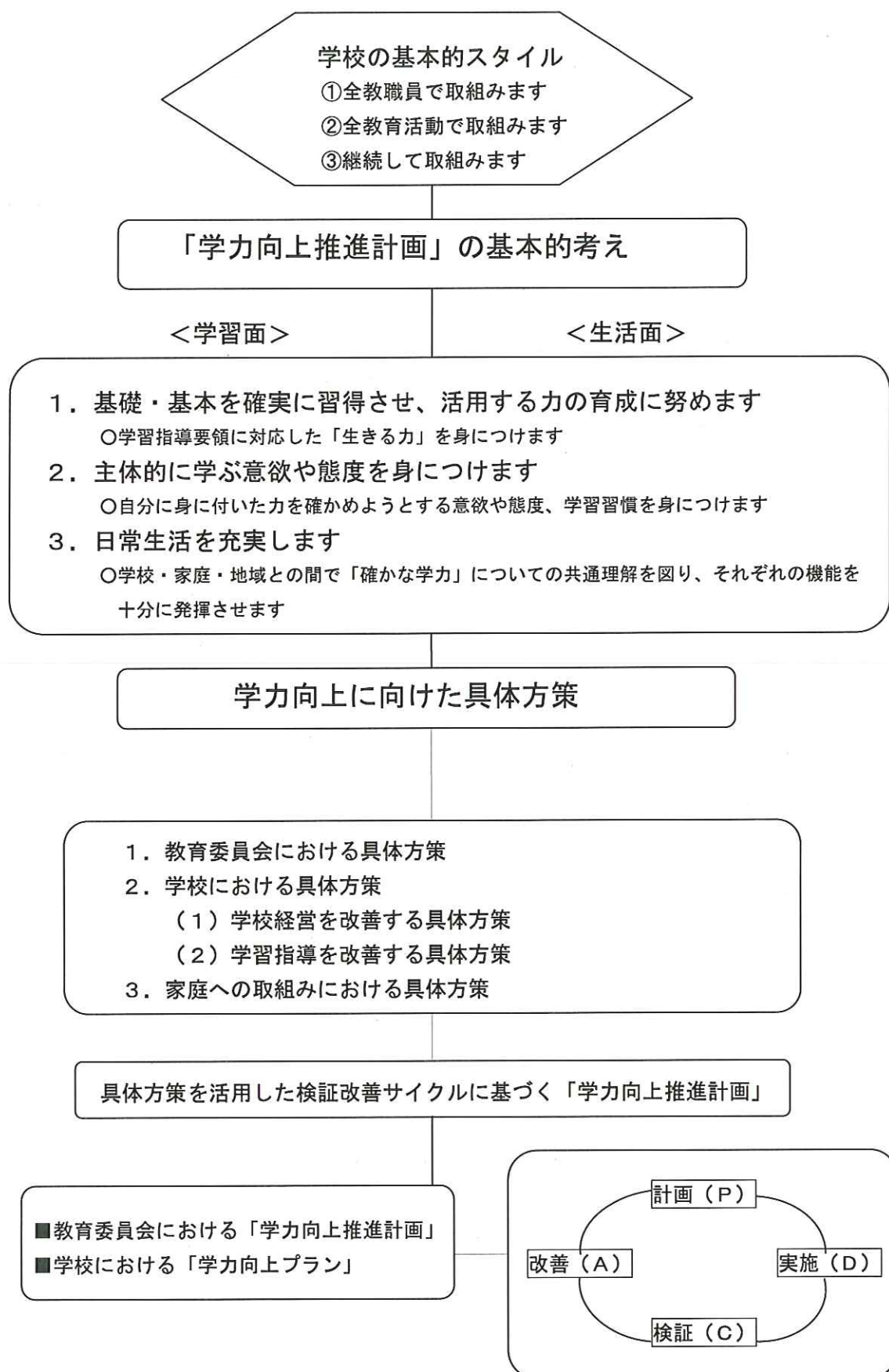
III 調査結果から見られる本市の課題

1. 学習面の課題
2. 生活面の課題

IV 学力向上に向けた具体方策

1. 教育委員会における具体方策
2. 学校における具体方策
 - (1) 学校経営を改善する具体方策
 - (2) 学習指導を改善する具体方策
3. 家庭等への取組における具体方策

I 「国東市学力向上推進計画」の概要



Ⅱ 「国東市学力向上推進計画」の基本的考え方

1. 「学力向上推進計画」の柱

◇ 国東市の喫緊の教育課題

「確かな学力」の向上



<基本方針>

「学校」「家庭」「地域社会」及び「行政」が
自らの役割と責任を果たしつつ、協働して
子どもたちを育成します

<重点課題>

「学力向上」のための3つの柱

①基礎・基本を確実に習得し、活用する力を
身につけます

◆学校力の育成（組織の活性化）

②主体的に学ぶ意欲や態度を身につけます

◆授業力の育成（教職員の資質向上）

③日常生活を充実します

◆家庭教育力の育成（家庭との連携）

2. 検証改善サイクルの確立

【「学力向上プラン」の作成（5月中）】

計画（P）

具体方策の実践計画の作成

- ・ 目標の重点化、数値目標の設定
- ・ 実施期間、評価時期、組織等の明確化 など

目ざす児童生徒の姿を具体的に捉えて、分かりやすい数値目標等を設定します。併せて、目標を実現するための期間、実施状況を把握する評価の時期、回数や方法、具体方策を展開する組織の全体像についても明らかにします。

【1学期・2学期・3学期に実践・改善】

改善（A）

評価を生かした改善方針の作成

- ・ 評価に基づく具体方策の見直し
- ・ 成果及び改善方策等の公表など

これまでの計画、実践、検証の内容や状況について成果や課題等を取りまとめて公表し、多くの人々の意見等を踏まえ、学習指導の改善に活かします。

実践（D）

効果を上げる工夫具体方策の実践

- ・ 授業改善（「1時間完結」型授業や「思考力・判断力・表現力を育成する」授業開発）の実施

学習指導要領にある指導事項の達成のために、全教科で言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育成する授業への転換を行います。

【学期末ごとに自己評価・関係者評価を実施】

検証（C）

定期的、日常的な評価・公表

- ・ 評価情報の収集、整理、分析（全国、県、市標準テストの活用）
- ・ 多面的に変容を捉える評価方法
- ・ 継続的な評価結果の活用
- ・ 学校関係者等による評価
- ・ 保護者、地域住民への結果の公表

評価計画に基づいて定期的、日常的に評価すること、児童生徒の姿を多面的に評価して変容の状況を詳細に分析したり、数値やグラフでわかりやすく示したりする等の工夫を行います。また、自己評価結果を学校関係者によって評価するなど、客観的な検証に努めます。

Ⅲ 調査結果から見られる本市の課題

平成23年度に実施された「全国学力・学習状況調査」「大分県基礎・基本定着状況調査」の調査結果から、学習面・生活面における課題を明確にし、今後の方策及び目標値を定め取組んでいきます。目標値については、各種学力調査において、知識等の基礎的な内容を7割以上、活用等の応用的な内容を5割以上の正答率をめざします。また、小・中学校において低位層の児童生徒数の割合30%以下をめざします。

1. 学習面の実態及び課題

(1)「全国学力・学習状況調査」

小学校6年生・中学校3年生（H23.9.実施）

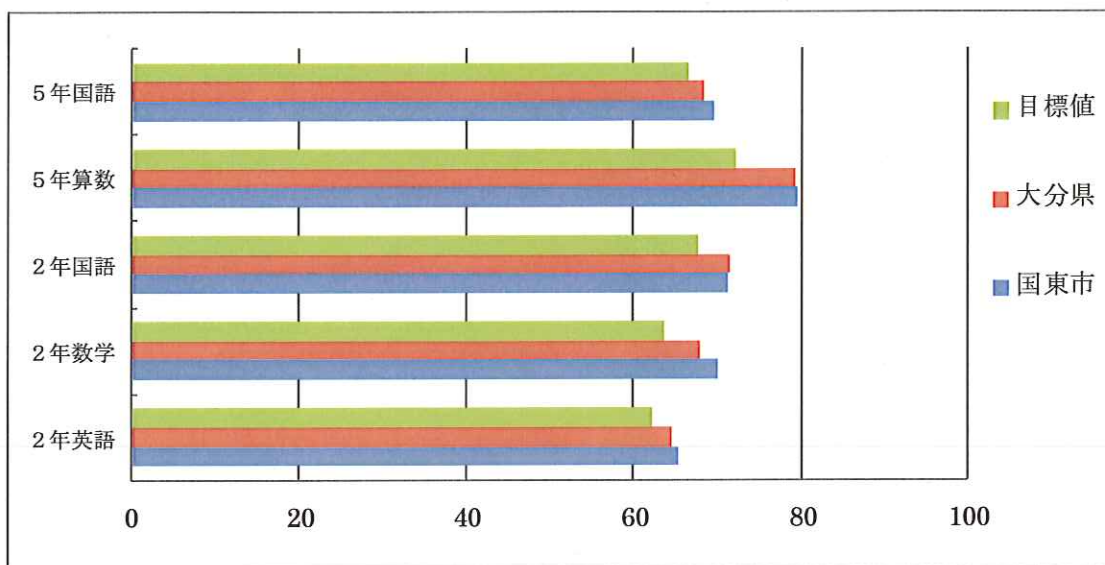
平成23年度 全国学力・学習状況調査結果(国東市)							
小学校	国語A		国語B		国語A(63.8%)		
	国東市	全国	国東市	全国			
平均正答率	74.3	77.3	39.4	41.1			
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	94.6	94.0	42.3	47.3	A層(85～)	35.4%
	書くこと	59.4	63.8	34.4	36.0	B層(70～)	28.4%
	読むこと	74.1	76.4	38.9	38.3	C層(40～)	30.0%
	言語事項	72.9	76.2	36.4	38.6	D層(20～)	5.1%
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	34.2	39.8	36.3	40.1	E層(0～)	1.2%
	話す・聞く能力	94.6	94.0	42.3	47.3	国語B(39.6%)	
	書く能力	59.4	63.8	34.4	36.0	A層(80～)	14.4%
	読む能力	74.1	76.4	38.9	38.3	B層(60～)	16.3%
問題形式	選択式	72.3	74.7	56.4	61.0	C層(30～)	23.3%
	短答式	75.4	78.9	39.2	39.4	D層(15～)	19.8%
	記述式			35.3	39.1	E層(0～)	26.1%
算数							
小学校	算数A		算数B		算数A(75.4%)		
	国東市	全国	国東市	全国			
平均正答率	80.8	81.1	43.2	45.0	A層(85～)		48.2%
学習指導要領の領域	数と計算	81.9	82.1	44.6	47.0	B層(70～)	27.2%
	量と測定	70.0	73.0	46.7	49.8	C層(40～)	21.4%
	図形	87.3	87.3	34.0	35.6	D層(20～)	2.7%
	数量関係	84.5	82.6	49.6	51.0	E層(0～)	0.4%
評価の観点	算数への関心・意欲・態度					算数B(25.6%)	
	数学的な考え方			35.6	37.5	A層(80～)	5.4%
	数量の表し方についての知識・処理	82.8	83.2	63.2	64.8	B層(60～)	20.2%
問題形式	数量の表し方についての知識・処理	76.4	76.4	51.8	54.1	C層(30～)	47.9%
	選択式	87.3	87.3	49.7	52.2	D層(15～)	21.4%
	短答式	79.6	79.9	63.7	65.2	E層(0～)	5.1%
記述式			21.6	23.2			
国語							
中学校	国語A		国語B		国語A(83.2%)		
	国東市	全国	国東市	全国			
平均正答率	81.6	79.7	64.7	64.5	A層(85～)		48.8%
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	81.8	77.9			B層(70～)	34.4%
	書くこと	80.2	79.0	50.7	48.7	C層(40～)	15.1%
	読むこと	88.7	84.8	64.7	64.5	D層(20～)	1.1%
	言語事項	78.9	78.3	35.4	37.1	E層(0～)	0.7%
評価の観点	国語への関心・意欲・態度			46.3	44.6	国語B(59.0%)	
	話す・聞く能力	81.8	77.9			A層(80～)	26.7%
	書く能力	80.2	79.0	50.7	48.7	B層(60～)	32.3%
	読む能力	88.7	84.8	64.7	64.5	C層(30～)	32.6%
問題形式	言語事項	78.9	78.3	35.4	37.1	D層(15～)	4.6%
	選択式	82.7	80.9	77.1	77.8	E層(0～)	3.9%
	短答式	82.3	80.9	67.5	67.5		
記述式	67.4	62.7	46.3	44.6			
数学							
中学校	数学A		数学B		数学A(36.1%)		
	国東市	全国	国東市	全国			
平均正答率	59.0	58.6	51.7	51.3	A層(85～)		11.9%
学習指導要領の領域	数と式	70.7	70.2	68.1	67.6	B層(70～)	24.2%
	図形	53.8	54.4	49.4	50.1	C層(40～)	42.1%
	数量関係	52.4	51.2	45.8	44.4	D層(20～)	16.5%
						E層(0～)	5.3%
評価の観点	算数への関心・意欲・態度					数学B(45.8%)	
	数学的な見方や考え方			51.0	51.0	A層(80～)	19.5%
	数学的な表現・処理	66.1	66.7	77.2	75.6	B層(60～)	26.3%
問題形式	数学的な表現・処理	53.3	52.1	35.4	31.4	C層(30～)	29.5%
	選択式	52.0	51.3	53.7	52.9	D層(15～)	14.7%
	短答式	65.2	65.1	62.7	61.5	E層(0～)	9.8%
記述式			40.5	41.3			

* () 内の数字 (%) は、国東市の目標達成率

- 小学校では国語・算数とも全国平均に達していない項目があります。特にB問題での課題が目立ちます。算数B問題で上位層が少ないこと、国語において下位層が多いことに課題があります。
- 中学校ではA問題・B問題ともに全国平均を上回る項目が多数あります。数学A・B、国語B問題において上位層が少ないことに課題が残ります。

(2)「大分県基礎・基本定着状況調査」 小学校5年生・中学校2年生 (H23. 4. 20 実施)

平均正答率	5年国語	5年算数	2年国語	2年数学	2年英語
目標値	66.4	72.1	67.7	63.6	62.1
大分県	68.3	79.2	71.5	68.0	64.5
国東市	69.6	79.6	71.3	70.1	65.4

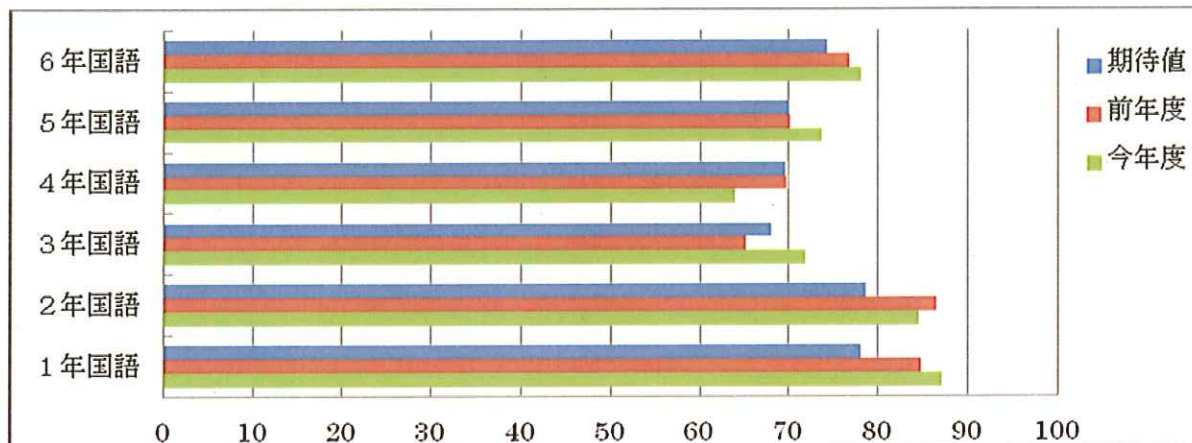


- 小学校5年生では、国語、算数ともに目標値・大分県平均ともに上回っています。しかし、算数の応用分野に課題があることが分かりました。『グラフや表などから情報を読み取ること』の習熟を図っていくことが必要です。
- 中学校2年生では、数学・英語とも目標値及び大分県平均を上回っています。しかし、国語においては大分県平均を下回りました。「文学作品の読み取り」、数学では「1次方程式」「比例・反比例」、英語では「条件英作文」において課題が見られました。今後は、国語では『場面の展開を押さえ、心情をとらえること』、数学では『日常生活からの情報の読み取り』、英語では『自分の考えを英語で表現すること』の習熟を図っていくことが必要です。

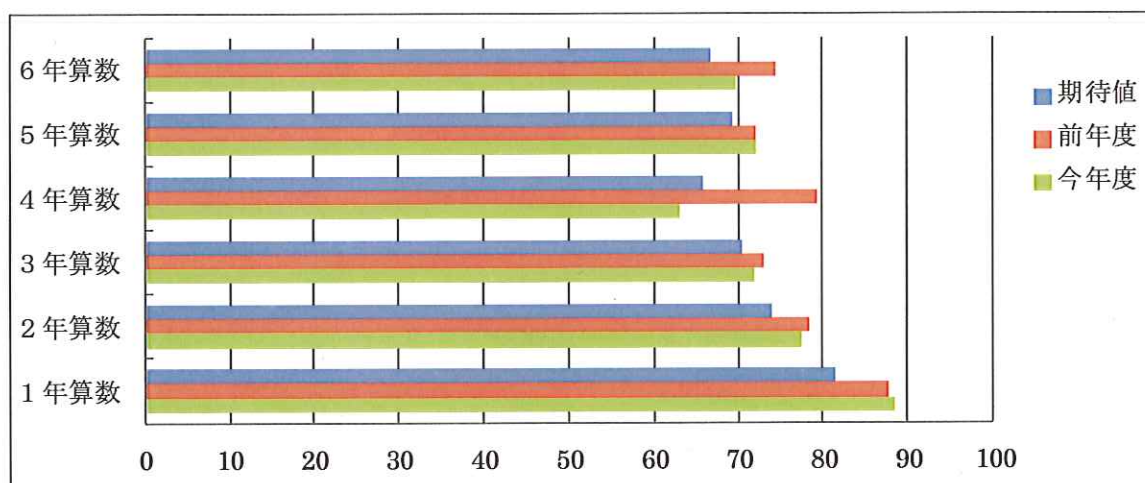
(3)「国東市標準学力調査」

小学校全学年・中学校1・2年生（H23.1.13実施）

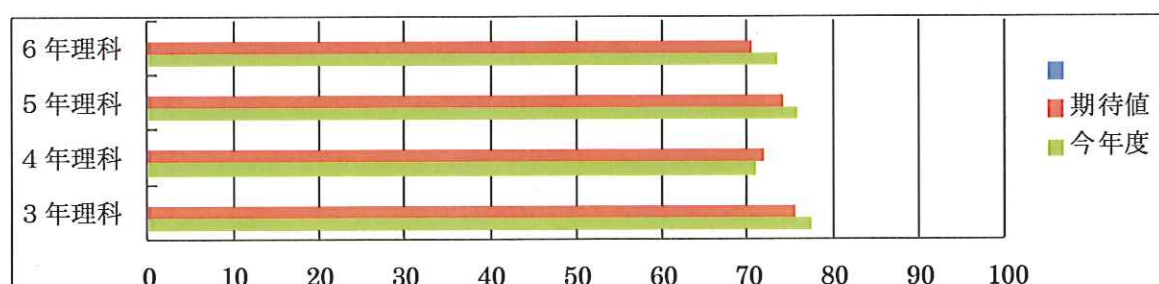
平均正答率	1年国語	2年国語	3年国語	4年国語	5年国語	6年国語
期待値	78.1	78.7	68.1	69.6	70.0	74.2
前年度	84.8	86.6	65.2	69.8	70.1	76.8
今年度	87.1	84.6	71.9	64.0	73.7	78.1



平均正答率	1年算数	2年算数	3年算数	4年算数	5年算数	6年算数
期待値	81.4	73.9	70.5	65.8	69.4	66.8
前年度	87.7	78.5	73.1	79.4	72.1	74.5
今年度	88.5	77.4	71.9	63.1	72.0	69.7

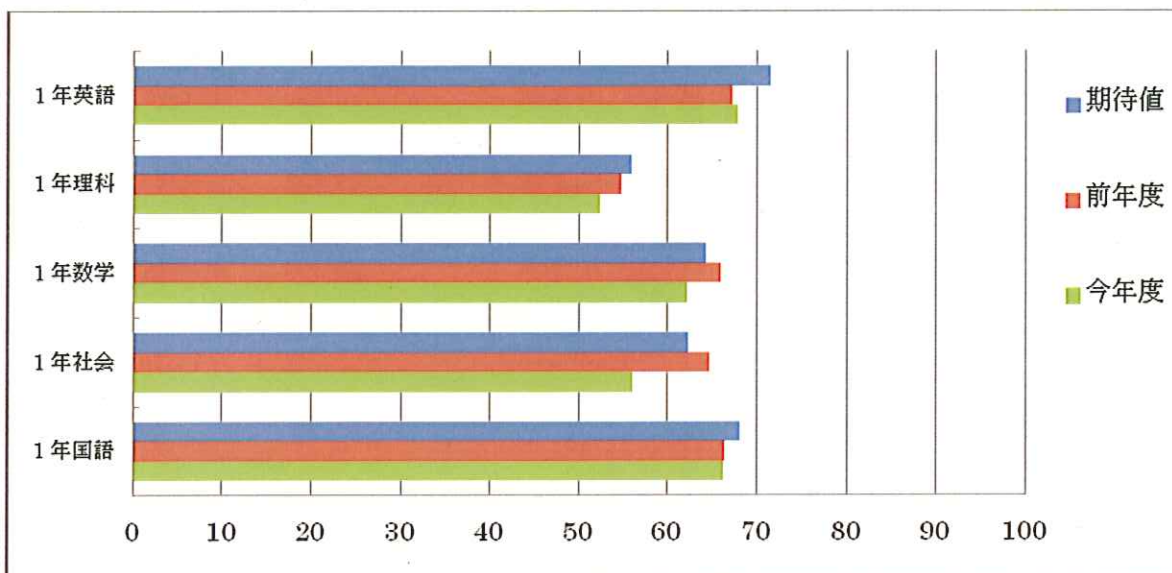


平均正答率	3年理科	4年理科	5年理科	6年理科
期待値	75.5	71.8	74.3	70.6
前年度	—	—	—	—
今年度	77.5	70.9	75.9	73.4



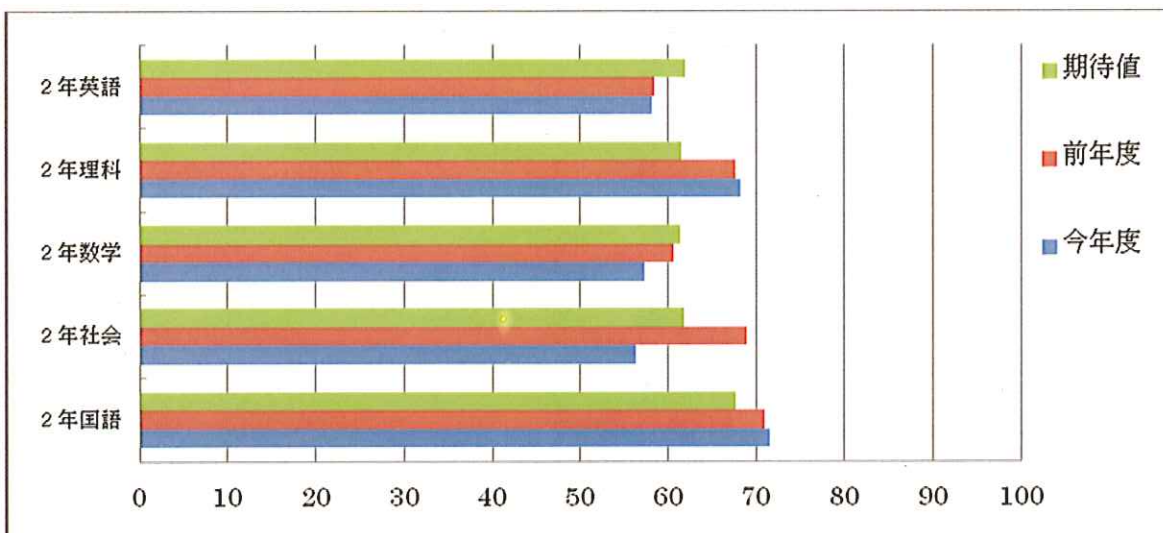
<中学校1年>

平均正答率	1年国語	1年社会	1年数学	1年理科	1年英語
期待値	68.1	62.3	64.2	55.9	71.5
前年度	66.4	64.7	65.9	54.8	67.3
今年度	66.3	56.0	62.2	52.3	67.8



<中学校2年>

平均正答率	2年国語	2年社会	2年数学	2年理科	2年英語
期待値	67.7	61.8	61.3	61.5	61.9
前年度	70.9	68.9	60.6	67.6	58.5
今年度	71.6	56.3	57.3	68.2	58.2



- 小学校では、国語、算数、理科で4年生のみ期待正答率を下回っています。今後は、新年度までに以下の項目を重点的に指導する必要があります。

<国語>

- 第2学年—「様々な資料の読み取り」
- 第3学年—「物語の読み取り」「説明文の読み取り」「様々な資料の読み取り」
- 第4学年—「話の内容の聞き取り」「漢字の読み」「言葉の学習」「物語の読み取り」「説明文の読み取り」「様々な資料の読み取り」
- 第5学年—「話の内容の聞き取り」「言葉の学習」「説明文の読み取り」「様々な資料の読み取り」
- 第6学年—「言葉の学習」「様々な資料の読み取り」

<算数>

- 第3学年—「10000より大きい数」「足し算・引き算」「長さ」「かけ算の文章問題」
- 第4学年—「少数」「計算の決まり」「折れ線グラフ」
- 第5学年—「図形の角」
- 第6学年—「比と比の値」「分数の掛け算・割り算」「文字と式」

<理科>

- 第3学年—「昆虫の育ち方」「昆虫の体とつくり」「日向と日陰の温度」
- 第4学年—「1年間の植物の成長」「1年間の動物の様子」「物の体積と力」「動物の体のつくりと運動」
- 第5学年—「顕微鏡の使い方」
- 第6学年—「動物の体のはたらき」「植物の体のはたらき」

- 中学校では、2年生の国語・英語のみで期待正答率を上回っています。

<国語>

- 第1学年—「漢字の読み」「説明文の読み」「文学作品の読み」「新聞記事の読み」
- 第2学年—「説明文の読み取り」「文学作品の読み取り」

<社会>

- 第1学年—「地球の姿」「世界の国々」「日本の国土」「弥生時代」「中世の政治文化」
- 第2学年—「アメリカ」「世界の気候」「日本の気候」「江戸時代」「全国統一」

<数学>

- 第1学年—「文字式」「文字を使った数量の表わし方」「1次方程式」「比例・反比例」
- 第2学年—「式の計算」「連立方程式」「一次関数」「図形の性質」「合同な図形の証明」

<理科>

- 第1学年—「植物の生活と種類」「光の性質」「音の性質」「力と圧力」「物質の性質」
- 第2学年—「電気」「生物の細胞」「消化器官」「動物の体」「動物の分類」「分解」

<英語>

- 第1学年—「リスニング」「長文の読み取り」「条件英作文」「文法・慣用表現」
- 第2学年—「リスニング」「長文の読み取り」「条件英作文」「文法・慣用表現」

新学年を迎える前に、今一度教科書に立ち返っての補充学習やフォローアップシートの活用を行ない、今年度の学習内容を十分定着させ進級させていく取り組みを徹底していくことが必要です。また、調査結果を次年度の自校の教育課程、特に各教科の年間指導計画の作成や「学力向上プラン」にいかし、年間を通じた計画的な取り組み（P-D-C-A）を行なうことが大切です。

2. 生活面の実態及び課題

《睡眠時間について》

- 小学校で睡眠時間が8時間未満の児童が3割、中学校で睡眠時間が6時間未満の生徒が1割います。学習効果を上げるために大切なことのひとつに睡眠時間があります。就寝時刻が遅いと、起床時刻も遅くなり、朝食をとることができない等の結果にもつながります。就寝時刻が一定していない児童・生徒が、ともに3割近くいます。帰宅後の生活リズムを確立し、適切な睡眠時間をとるよう指導していくことが大切です。

<指導のポイント>

○睡眠時間・就寝時刻のめやす

- | | | |
|------------------------|--------------------------|------------------------|
| ・小学生の睡眠時間
8時間 ~ 9時間 | ・小学生の就寝時刻
午後 9時 ~ 10時 | ・小学生の起床時刻
午前6時 ~ 7時 |
| ・中学生の睡眠時間
6時間 ~ 8時間 | ・中学生の就寝時刻
午後10時 ~ 11時 | ・中学生の起床時刻
午前6時 ~ 7時 |
- ・就寝時刻を考えた帰宅後の生活リズムづくり

睡眠不足は、授業への集中力を減退させ、学力の向上の妨げになるばかりではなく、体内時計が狂い、通常乗り越えられる課題も乗り越えることができなくなるといわれています。また、成長期の子どもたちにとって睡眠は単なる休養ではなく、脳を成長させる大切な時間でもあります。常に、頭と心と体がスッキリした状態でいられるよう、睡眠時刻や起床時刻を決め規則正しい生活リズムを維持することの大切さを指導していくことが必要です。

《テレビ、インターネットについて》

- 小学校、中学校で2時間以上テレビ・インターネット等を視聴している児童の割合が4割近くいます。文部科学省の調査によれば、『テレビ・ビデオやゲーム、携帯電話、パソコンを使用する時間が長いほど就寝時刻が遅くなる、他者と交流する割合が少ない、疲れを訴える割合が多い』ということが報告されています。使用する時間やテレビ・インターネット等の視聴時のルールを決めるよう指導することが大切です。

<指導のポイント>

○使用する時間の決定（小・中学生）

- ・1日 1時間 ~ 2時間以内

○その他

- ・使用時間帯のルールを決める。
- ・読書に親しむ時間の設定

学校は、定期的に「テレビやゲームにふれない日」を決めること等、家庭での取組を指導していくことが大切です。テレビ・ビデオ、ゲーム、パソコン等を長時間使用することは、学習時間や睡眠時間を不足させることにつながり、生活リズムを崩す大きな要因にもなっています。また、使用する時間だけでなく、望ましい利用の仕方についても指導していくことが必要です。あわせて読書に親しむ時間を増やすことの大切さを指導していくことも必要です。

《家庭学習について》

- 小学校、中学校とも30分～2時間の生徒が9割近くを占めていますが、3時間以上の児童生徒が少ないといったように個人個人に応じた学習時間が確保されているとはいえません。学ぶ習慣をつけるためにも家庭学習を生活リズムの一つとして位置づけることが必要です。そのためには、保護者の理解・協力が大切です。

<指導のポイント>

○小学校 1日平均

低学年 30分 ～ 1時間

中学年 1時間 ～ 1時間半

高学年 1時間半～ 2時

○中学校 1日平均

1年生 2時間 ～ 2時間半

2年生 2時間 ～ 2時間半

3年生 2時間半～ 3時間

- ・学習する時刻、時間、場所の設定
- ・学習に集中できる環境づくり（「ながら勉強」はしない）

各学年の学習時間は、「めやす」として示しています。「学ぶ」習慣の定着のために根気強くしつけていくよう指導することが大切です。

家庭学習は、その時間の長さだけでなく、内容・仕方によって効果が異なることについても指導することが大切です。各学校は、「家庭学習の手引き」等を作成し、児童生徒自らが学習に取り組むことができるよう学び方を指導していくことが必要です。また、年度当初のPTA等で積極的に保護者に発信していくことも大切です。

《読書について》

- 小学校、中学校において、読書は好きだと答えている子どもが7割近くいるにもかかわらず、1日の読書量が30分以下と少ない子どもが7割近くもいる実態があります。

学力テストのB問題と読書の時間の相関関係を見ると、読書時間の多い児童・生徒ほどB問題の正答率は上がっています。多くの本にふれて読書する児童・生徒ほど読解を要する問題には取り組んでいるということがいえます。

<指導のポイント>

- ・家庭学習の中に「読書」に関する学習を入れる。
- ・学校生活の中で図書館に足を運ぶよう進める。
- ・図書館を活用した学習を進め、読書への関心興味をもたせる。

1週間に1度も図書館に行かない児童・生徒が小学校で6割強、中学校で生8割強います。読書の習慣がつくまでは、学校で取り組んでいる読み聞かせや授業の中での図書館活用などを通して、児童・生徒が図書館に足を運ぶような取り組みが必要です。またその際、学校司書とも連携をして取り組んでいく必要があります。

家庭においても帰宅してからの時間や休日の生活時間の見直しを図り、保護者と連携して読書の習慣が身につくようにしていく必要があります。

IV 学力向上に向けた具体方策

「教育委員会」「学校」「家庭・地域」がそれぞれの役割と責任を
果たしつつ、地域総ぐるみで取組む

<教育委員会の取組>

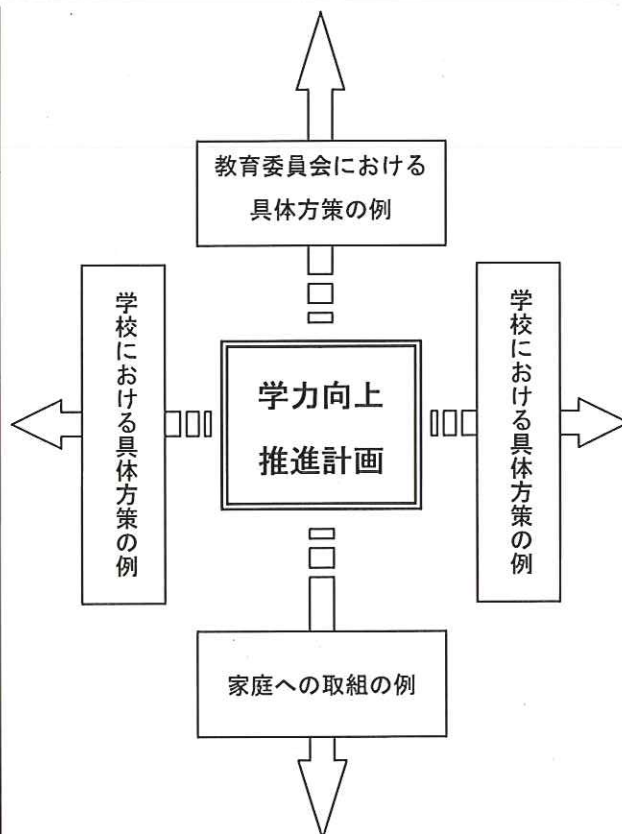
- 学力向上支援教員の有効活用と市内の学校へ指導に出向くシステムの構築
- 学力向上本務校と兼務校の指定と情報の提供（点から面へ）
- 授業力向上月間（6月・11月）の設定と小中連携の推進
- 各種主任会の開催と教科部会との連携
- 学校の「学力向上プラン」を実効性のあるものとするよう指導
- 国東市の「学力向上推進計画」を公表し、家庭や地域に児童生徒の学力を伸ばすため学校と一体となった取組を呼びかける工夫
- 学力向上ステップアップ事業や学びの教室事業の実施による地域人材の活用促進
- 「特別支援教育支援員」や「学習支援教員」の派遣による人的支援
- 「教育の里づくり」シンポジウムの開催による学校、家庭、行政一体となった推進
- 各種テスト（全国、県、市）結果を分析・考察し、市としての取組の方向性の提示

<学習指導>

- 学習意欲の向上、学習習慣の確立
- 言語活動を取り入れた児童・生徒主体の学び合う「1時間完結」型授業の実践
- 知識・技能を活用し探求する授業展開の実施
- 習熟度の程度や個に応じた少人数指導の実施
- 学力向上支援システムの活用による知識・技能の確実な定着
- 学校図書館を活用した授業実践

<学校経営>

- 児童生徒に確かな学力を身につけさせる教育課程の工夫改善
- 授業観察・提案授業・互見授業による授業力の向上
- 確かな学力を育む研修体制の確立
- 月1回の学校公開の実施とPTA出席率の向上
- 主体的な学習習慣の確立を支援する家庭との連携
- 図書館の利用と有効活用
- 学力向上に向けての学校評価の実施



<家庭・地域の取組>

- 望ましい生活習慣の定着
- 発達段階に応じた家庭学習や読書習慣の定着
- 学校・家庭との連携した研修（PTA活動等）や授業参観への積極的参加
- 「教育の里づくり」シンポジウムへの参加（8月）
- 環境整備や学習サポーターとしての主体的・積極的支援（地域人材の活用）

1 教育委員会における具体方策

学校の意欲的な取組や具体的な学力向上策を引き出す工夫改善

- ① 学力向上支援教員の有効活用と市内の学校へ指導に出向くシステムの構築を図ります。
 - ◆学力向上支援教員の活用の時期を3期に分けて取り組みます。
 - 第1期 ・本務校で、言語活動を取り入れた授業実践に取り組んだり、兼務校において授業観察を中心に行い、それをもとに指導法について協議します。
 - 第2期 ・兼務校において指導助言やTTでの授業実践を行います。
 - ・公開授業（5回）において授業により指導法の提案を行います。
 - ・市内全教職員はその公開授業に年間1回以上参加します。
 - 第3期 ・本務校・兼務校において授業実践や指導を行うとともに、成果の整理をし、市内全域に普及する準備を行います。
 - ◆毎月1回（第3火曜日）学校教育課主催の学力向上支援教員・指導主事等で指導法等について協議会を行います。
- ② 学力向上本務校と兼務校の指定と情報の提供をイントラネット上で行います。
 - ◆国東小学校・小原小学校を本務校として「国語」の学力向上支援教員を配置し、教科担任として指導を行います。また、近隣の富来小学校・旭日小学校を兼務校とし教員の指導や授業実践等の指導に入ります。
 - ◆武蔵東小学校を本務校として「理科」の学力向上支援教員を配置し、教科担任として指導を行います。また、近隣の武蔵西小学校を兼務校とし教員の指導や授業実践等の指導に入ります。
 - ◆安岐中央小学校を本務校として「算数」の学力向上支援教員を配置し、教科担任として指導を行います。また、近隣の安岐小学校を兼務校とし教員の指導や授業実践等の指導に入ります。
 - ◆毎月1回の市教委主催の協議会や公開授業等で話し合った情報を校長会等で報告します。
- ③ 授業力向上月間（6月・11月）の設定をするとともに、幼小中の連携を図ります。
 - ◆6月と11月を授業力向上月間と位置づけ、保護者、地域に学校の公開を行います。
 - ◆小中でお互いに授業参観を行い、交流を深めます。
 - ◆中学校ブロック内での互見授業の実施や連携会議等を行い、幼・小・中学校の連携を進めます。
- ④ 各種主任会の開催と教科部会との連携の推進を図ります。
 - ◆各研究部会（国語・算数・理科）と協力し市内へ取組を広げる。
 - ◆学力向上支援教員は、研究主任会に参加し情報の提供を行います。
- ⑤ 学校の「学力向上プラン」を実効性あるものとするよう指導します。
 - ◆学校教育課が主体となり、各学校に指導・助言に入ります。
- ⑥ 国東市の「学力向上推進計画」を公表し、家庭や地域に児童生徒の学力を伸ばすため学校と一体となった取組を呼びかけます。
- ⑦ 学力向上ステップアップ事業や学びの教室事業の実施による地域人材の活用促進を図ります。
- ⑧ 「特別支援教育支援員」や「学習支援教員」の派遣による人的支援を行います。
- ⑨ 教育の里づくり」シンポジウムの開催により、学校、家庭、行政一体となって学力向上の推進を図ります。
 - ◆市報「くにさき」に年間4回『教育だより』として掲載します。
- ⑩ 各種テスト（全国、県、市）結果を分析・考察し、市としての取組の方向性を提示します。

2 学校における具体方策

(1) 学校経営を改善する具体方策

- ① 児童生徒に「確かな学力」を身につけさせる教育課程の工夫・改善を行います。
 - ◆指導の重点化を図るとともに、学校教育目標実現のため各教科、各学年・学級における具体的方策をそれぞれの経営案に位置づけます。
 - ◆授業時数の管理を行い、標準授業時数を確保します。
- ② 授業観察・提案授業・互見授業による授業力の向上を図ります。
 - ◆授業を見る視点をはっきりさせた授業観察や提案授業、互見授業に取組み授業力向上をめざします。
- ③ 確かな学力をはぐくむ研修体制の確立を図れます。
 - ◆近隣の学校や中学校の校区など、相互の学力向上の取組や各学校の課題解決に向けた取組に学び合う体制を整え、研究体制の拡充を図ります。
- ④ 月1回の学校公開の実施とPTA出席率の向上を図ります。
 - ◆魅力ある参観授業や保護者懇談会の企画を行います。
 - ◆学校と家庭・地域とが連携を図るため学校公開への参加を呼びかけます。
- ⑤ 主体的な学習習慣の確立を支援するため家庭との連携を強化します。
 - ◆『家庭学習のしおり』や『家庭学習の手引き』を作成し、年度当初に丁寧な説明を行います。
- ⑥ 読書活動を推進するとともに学校図書館を有効に活用します。
 - ◆読書量を増やすとともに、学習の場として有効に活用します。
- ⑦ 学力向上にかかわる評価をし、学校経営に生かします。
 - ◆各種テスト（全国、県、市）結果を分析・考察するとともに、市としての取組の方向性をもとに、数値目標の設定やスケジュール化を行い、具体的方策を立てます。
 - ◆「国東市学力向上推進計画」に記載した事項を、学校評価項目に追加し検証します。（1月末）

(2) 学習指導を改善する具体方策

- ① 学習意欲の向上や学習習慣の確立を図ります。
 - ◆学習ルールの確立や整理整頓による落ち着いた学習環境づくりに努めます。
 - ◆興味関心をもとに学習課題を設定し、追究しながら深めていく課題解決学習に取組みます。
- ② 言語活動を取り入れた児童・生徒主体の学び合う「1時間完結」型授業の実践を行います。
 - ◆授業のねらいを児童生徒に意識させ、個人解決・集団解決の場を位置づけ、児童生徒の到達状況を見取る「1時間完結」型授業や板書の構造化の徹底を図ります。
 - ◆学習指導要領解説にある指導事項と言語活動例をもとに、言語活動を取り入れた授業実践に取組みます。
- ③ 知識・技能を活用し、探究する授業を展開します。
 - ◆実生活における事象との関連を図ったり、身近な素材を用いて学習したりするなど、日常生活との関連を図った学習活動を取入れます。
- ④ 習熟度の程度や個に応じた少人数指導の実施をします。
 - ◆学習支援員、特別教育支援員等と連携し、個に応じた指導を図ります。
- ⑤ 学力向上支援システムの活用による知識・技能の確実な定着を図ります。
 - ◆学力調査後には、学力向上支援システムを活用し繰り返し学習を行います。
- ⑥ 学校図書館のを活用した授業実践を行います。
 - ◆学校司書と連携し、自ら本に手を伸ばす態度を養うとともに、目的に応じて読んだり、内容を読み取ったりする能力を身につけさせ、豊かな心の育成と学力の向上を図ります。

3 家庭・地域における具体方策

望ましい生活習慣や学習習慣を確立することが大切

- ① 望ましい生活習慣の定着をめざしましょう。
 - ◆ 起床時刻や就寝時刻、テレビを見る時間を見直すなど、家族で1日の生活のリズムの改善を図るようにします。特に、就寝時刻については、小学生で午後10時まで、中学生については午後11時までを目安としましょう。
- ② 発達段階に応じた家庭学習や読書習慣の定着を図りましょう。
 - ◆ 「家庭学習の手引き」を活用し、自ら学習に取り組むことができるよう計画した家庭学習の目標や内容にそって進められるよう声かけをしましょう。
 - 温かい助言や励ましを与えてやる気を育てましょう。
 - 自分で取組もうとしている姿勢を積極的に励ましましょう。
 - やったことをしっかり見届けてほめてあげましょう。
 - ◆ 家庭学習の一環としてできるだけ読み聞かせや親子読書の時間を設け、読書の楽しさやすばらしさを実感させ、習慣化を図りましょう。
 - ◆ 公共図書館等を積極的に活用し、本に慣れ親しむ心情を育てましょう。
- ③ 学校・家庭との連携を深めましょう。
 - ◆ PTA総会や授業参観、学級懇談会へ積極的に参加し、担任とのコミュニケーションを図りましょう。
 - ◆ 市報「くにさき」の教育だよりや「学校だより」「学年・学級通信」等を通して学校の教育方針や教育情報を家庭教育にいかしましょう。
- ④ 「教育の里づくり」シンポジウムへの参加をしましょう。
 - ◆ 国東市教育委員会が主催する「教育の里づくり」シンポジウムに参加しましょう。
- ⑤ 環境整備や学習のサポーターとして学校支援を主体的・積極的に行いましょう。
 - ◆ 学校教育活動を支援するために主体的・積極的に学習（授業、学びの教室、学力向上ステップアップ事業等）・環境・安全に対するサポーターとして協力しましょう。

発行

国東市教育委員会 学校教育課

〒873-0503

国東市国東町鶴川 160-2

TEL 0978-73-0066

FAX 0978-73-0067

E-mail gakko-kyoiku@city.kunisaki.lg.jp